

1. 総括

R2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、世界的に大きな変化を余儀なくされた年だった。利用者の生命の安全や感染予防の対策を行いながら、自宅でも安心して訓練が受けられるように、オンラインでの在宅訓練に切り替えた。就職に向けたパソコン練習や、専門的知識をもつ経験豊かなプロ講師によるオンラインでの学習会、ストレッチクラスや、余暇・コミュニケーションクラスなどの在宅訓練を基本にしながら、社会状況に応じて、通所日や時間を調整し、途切れのない就労訓練プログラムを提供することが出来た。在宅訓練中は、スタッフとのオンライン面談を通じ、特に健康管理やメンタル面のケアを行った。自宅にパソコンやインターネット環境がない方には、パソコンやモバイル Wi-Fi の貸出(無料)を行った。

事業主の方々の協力を得て、オンラインでの企業見学を開催した。

地域の方々、事業主が講師となり、料理やアートの体験ワークショップを開催した。市内のお店の集客を目的とした企画会議やイベントを開催した。(※KANUMAISMの活動)

企業やハローワーク、障害者就業・生活支援センター、医療機関、ご家族等と連携し、6名の方が就職できた。就職先への定期訪問や、ご本人との面談、就職後も参加できる余暇(ラメンクラブ、自己啓発クラブ)の開催など、就労定着支援を行った。

コロナ禍でコミュニケーションが難しいなかでも、地域の力を借りて、利用者が、新たな価値観をみつけ、自分の人生を選び、苦手なところは周りの力を借りて生活していくことの喜びや安らぎが生まれた。

※KANUMAISM

丸紅基金社会福祉助成金事業の採択をいただき発足したプロジェクト。

鹿沼の地域産業に関わる事業主とつながり新たな商品・サービスを生み出し地域活性化・情報発信をしていく事業

2. 年間利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数	7	8	9	8	8	8	9	8	5	5	6	4	85
退所者数	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	2	
稼働日数	20	20	20	21	20	19	22	21	21	21	18	19	242
延利用者数	93	113	124	114	94	96	119	99	78	73	75	49	1127
1日平均利用者数	4.6	5.6	6.2	5.4	4.7	5	5.4	4.7	3.7	3.4	4.1	2.5	4.6

※主な欠席理由：体調不良・精神不安定・家事都合

3. 担当職員

サービス管理責任者：神戸真弓

就労支援員：西川由利子

職業指導員：川田幸子

生活支援員：大類法子

4. 成果と課題

(1) 就労支援

【成果】

・企業見学では、実際に働いている人たちの現場を見学し、仕事のやり方や環境も体験することでリアリティのある就労イメージを持つことができた。また、経営者や担当者からの話を聞き、好きな仕事とできる仕事の違いを学ぶことができた。

・企業見学を通して、企業側への理解啓発をする事で実習受け入れ可能企業を65か所まで増やすことができた。

(東京インテリア配送センター、東京インテリア第二本部、東京インテリア宇都宮店、東京インテリアインターパーク店、ヤマト運輸(株)、ユニクロ宇都宮店、(有)真京精機、ピバホーム鹿沼店、ヨークベニマル鹿沼睦町店、特別養護老人ホームハーモニー、セントラルカッティング(株)、ウッディパネル(株)、(株)JSPモールディング、栃木トヨタ(株)、(株)ナカニシ、菓子工房松屋、シンフォニーあわの、鹿沼花の風、(有)マーサーズ、(株)フォウルビ、河淳(株)、ゼブラ(株)、(株)シーボン、(株)共立、こいしや食品(株)、(株)こぶし急便、(株)ヤオハンフードセンター、(株)やさしい手、カワチ薬品千渡店、ランスタッド(株)テクノセンター、温泉パン(株)、さわやか鹿沼館、(株)薄井工務店、(株)栃緬、(株)アクティチャレンジ、(有)アップライジング、上陽工業(株)、オリックスレンタカー栃木(株)、北関東物流(株)、大谷いちごクラブ、植木鋼材(株)、(株)イシカワ、鹿沼市立図書館、サンプラスチック(株)、(株)総研、(株)ジャパンエコロジーシンキング、(有)米菓工房和、バンダイナムコウィル鹿沼、(株)ヒーロー、フライングガーデンインターパーク店、(株)若山商店、ガーデンクリエイト(株)、(株)生晃、のざわさんち、(株)真岡製作所、月とスパイス、軍鶏屋、(株)白龍堂、飛行船、すす新鹿沼駅前店、大関種苗園、フリースタイル、板荷無量壮、ゼウスカークリーン、マルハン鹿沼店) 順不同

・施設内の実習では、本人の特性がわかり、本人に合った作業に取り組んでもらうことで自己肯定感を高めることができた。治具や指示書、スケジュールの提示をすることで、自立して作業に取り組めるようになった。

・企業実習ではCSAWやCSCや、WSSPなどを活用し、具体的な評価をすることで、自分にはどのような職業がっているのかを確認できた。

・職場体験実習では、地域の人たちに働く姿を見てもらい、認めてもらい、交流を重ねることで自信がつき、企業実習へ意欲的になった。

・障害者就業・生活支援センターと連携し定着支援を行った。

・就労アセスメントにより、2年間の訓練機関での就労が難しい人には、就労継続B型の利用を勧めた。

・学習会として、見学の振り返りを行い、自己評価・他者評価を確認することで自信や自己理解のプロセスにつながるきっかけになった。また、利用者さんが日頃感じている悩みや困りごとの意見交換ができ、互いに励まし合いながら向上することができた。

・定期的に、学習会を開催することができた。オンラインでも開催できるようになった。(アドラー心理学、感情のワークショップ、CLSP、グッドヘルス講座、ストレッチ講座) 就労を続けるために必要な感情のコントロールの仕方や、食事と健康について学ぶことができた。オンラインでの開催が可能になり、遠方の講師にお願いしやすくなった。

・通所が難しい利用者さんも、オンライン学習会へは参加できた。

【課題】

・予定していた学習会が開催できなかった。(講師の体調不良)

(2) 生活支援

【成果】

・余暇活動を通して仲間とのコミュニケーションを学んだ。

- ・余暇活動をモチベーションに企業実習に取り組むことができた。
 - ・OBも対象にした余暇活動を行い、就労後もつながり様子を見守ることができた。
- OBとの交流を通して就労への意欲喚起を促すことができた。
- ・得意な事を皆で共有することで自信を持つことができた。
 - ・個別の相談には随時対応し、解決方法を一緒に考え助言することで、信頼関係を築き、自分一人で抱え込まず相談できるようになった。
 - ・GHの職員と情報を共有し、同じ目標に向かって支援することができた。
 - ・一人で通院することを目標に通院同行し、その後自立して通院できるようになった。

(3) 入口強化

- ・特別支援学校、相談支援事業所、障害者就業・生活支援センター、発達障害者支援センター、鹿沼市自立支援協議会等との連携で信頼関係を築き利用者を紹介してもらった。
- ・フェイスブック等、一般の人から関係者まで幅広い層の理解者をリアルタイムで得ることができ、訪問先での話題が増え、実習先企業のイメージアップにも貢献した。
- ・発達障害者支援セミナー（栃木県から依頼）の講師を務め、支援事例の報告をしたことで、相談支援センターからの紹介が増えた。
- ・KDSや、CCV学園との連携で利用者が増えた。

(4) 職員会議・支援会議

○職員会議

- ・毎月1回開催
- ・研修報告を通して、職員のスキルアップを図った

○支援会議

- ・月に1回開催

(5) 研修会

- ・自閉症カンファレンス（西川・大類）
- ・精神障害者職場定着サポートスキルアップ研修（大類）
- ・精神疾患についての基礎知識（大類）
- ・ソーシャルストーリーズ入門（西川・大類）
- ・就業支援基礎研修（大類）
- ・障害者虐待防止・権利擁護研修（西川）
- ・精神・発達障害者職場定着サポートスキルアップ研修（西川）
- ・訪問型職場適応援助者研修（西川）
- ・苦情対応研修（西川）
- ・行動分析学オンラインセミナー（全職員）
- ・中小企業家同友会例会（西川・大類）